

【別紙様式3】

再評価実施事業調査

番 号	1	事 業 名	社会資本整備総合交 付金（河川事業）			路 線 又 は 箇 所 名 等			一級河川利根川水系 印旛沼		
事 業 所 管 課			河川環境課			事 業 主 体			千葉県		
事業化 年度	平成 15 年度		用地着手 年度	—		工事着手年度 工事終了(認可)年度	平成 16 年度 平成 42 年度		再 評 価 の 理 由		再々評価
費用便益比 B／C	3. 6 (3. 6)	総費用	143. 7 億円 (81. 5 億円)		総便益	523. 5 億円 (290. 8 億円)		基準年	平成 29 年度	供用開始 年度	平成 42 年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

(目的)

印旛沼では昭和40年代以降、人口増加、市街地の発展に伴って、家庭や工場・事業所からの負荷により、水質が悪化し、度々アオコが発生するようになった。さらには、近年水質が連続で全国ワースト1となるなど、決して良好な状態であるとは言えない。こうした水質の悪化を改善すべく、植生帯の造成や底泥浚渫、河川浄化施設整備を行い、「恵みの沼」を再生することを目的とする。

【事業の進捗状況】

全体計画（億円）	事業実績費（億円）	残事業費（億円）	進捗率（%）
150.0	43.2	106.8	29

①植生帯造成 2.0km/12.1km (17%) ②底泥浚渫 96,590 m³/670,000 m³ (14%)

③浄化施設整備 0ヶ所/1ヶ所 (0%)

【社会経済情勢等】

○流域状況

下水道整備、浄化槽の導入等が進んでいるものの、流域人口は増加傾向にある。また、流域の土地利用は市街地等が増加傾向にある。

これまで、様々な対策を進めてきたことによって、最も水質が悪化した時期に比べると水質（COD）は改善しているものの、依然として高い水準（近年11～12mg/L）で横ばいに推移しており、環境基準（COD75%値3mg/L）には達していない。

○水質状況の変化（COD）

◇過去最も高かった年の平均値

（北印旛沼）COD・・・13mg/l（H6） （西印旛沼）COD・・・12mg/l（H11）

◇現況値（H28）

（北印旛沼）COD・・・11mg/l （西印旛沼）COD・・・11mg/l

【対応方針（案）】

印旛沼流域では、人口増加、市街地面積割合の増加は続いているものの、本事業の推進、関連施策を推進しているため、現状の水質を維持しているところである。

現時点においても、地域の水質改善の要望は強く、事業の投資効果も見込まれることから、事業を「継続」したい。

【別紙様式 4】

事業概要図																							
番号	1	事業名	社会資本整備総合 交付金（河川事業）	路線又は箇所名等	一級河川利根川水系 印旛沼																		
■植生帯造成 <table><tr><td>内容</td><td>○印旛沼の湖岸に植生帯を造成 ○かつて生育していた水生植物を再生</td></tr><tr><td>効果</td><td>○水生植物による水質改善 ○植物群落による生物生息環境の向上</td></tr><tr><td>規模</td><td>○整備済み：2.0km ○全体計画：12.1km</td></tr></table> ■底泥浚渫 <table><tr><td>内容</td><td>○水質汚濁の原因となる湖底浮泥の除去 ○植生帯造成土の確保</td></tr><tr><td>効果</td><td>○水質悪化の防止・低減</td></tr><tr><td>規模</td><td>○浚渫済み：9.7万m³ ○全体計画：67.0万km³</td></tr></table> ■浄化施設整備 <table><tr><td>内容</td><td>○汚濁した河川・水路に水質浄化施設を整備</td></tr><tr><td>効果</td><td>○汚濁した河川の水質改善 ○印旛沼に流入する汚れの削減</td></tr><tr><td>規模</td><td>○全体計画：1箇所</td></tr></table>						内容	○印旛沼の湖岸に植生帯を造成 ○かつて生育していた水生植物を再生	効果	○水生植物による水質改善 ○植物群落による生物生息環境の向上	規模	○整備済み：2.0km ○全体計画：12.1km	内容	○水質汚濁の原因となる湖底浮泥の除去 ○植生帯造成土の確保	効果	○水質悪化の防止・低減	規模	○浚渫済み：9.7万m ³ ○全体計画：67.0万km ³	内容	○汚濁した河川・水路に水質浄化施設を整備	効果	○汚濁した河川の水質改善 ○印旛沼に流入する汚れの削減	規模	○全体計画：1箇所
内容	○印旛沼の湖岸に植生帯を造成 ○かつて生育していた水生植物を再生																						
効果	○水生植物による水質改善 ○植物群落による生物生息環境の向上																						
規模	○整備済み：2.0km ○全体計画：12.1km																						
内容	○水質汚濁の原因となる湖底浮泥の除去 ○植生帯造成土の確保																						
効果	○水質悪化の防止・低減																						
規模	○浚渫済み：9.7万m ³ ○全体計画：67.0万km ³																						
内容	○汚濁した河川・水路に水質浄化施設を整備																						
効果	○汚濁した河川の水質改善 ○印旛沼に流入する汚れの削減																						
規模	○全体計画：1箇所																						

【別紙様式 5】

再々評価事業に関する調書

番 号	1	事 業 名	社会資本整備総合交付金（河川事業）	路 線 又 は 箇 所 名 等	一級河川利根川水系 印旛沼
事業化年度	平成 15 年度	用地着手年度	—	工事着手年度	平成 16 年度
【再評価の概要】					
再評価実施年度 （基準年）	平成 24 年度	供用開始年度	平成 18 年度	対応方針	継続
B／C	3.4	総費用	119.8 億円	総便益	406.4 億円
再評価時の委員会の意見 及び当時の状況 平成 25 年 3 月 第 8 回手賀沼・印旛沼・根木名川圏域流域懇談会印旛沼部会 事業再評価「継続」					
再評価時の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状況					
	計 画	進捗状況	5 年後の想定進捗状況		
全体事業費	150.0 億円	30.8 億円	46.3 億円		
用地取得面積	—	—	—		
供用面積（延長）	—	—	—		
【再々評価の概要】					
再評価実施年度 （基準年）	平成 29 年度	供用開始年度	平成 42 年度	対応方針	継続
B／C	3.6	総費用	143.7 億円	総便益	523.5 億円
現在の進捗状況					
	計 画	進捗状況			
全体事業費	150.0 億円	43.2 億円（29%）			
用地取得面積	—	—			
供用面積（延長）	—	—			
再評価後の経過 及び 処理状況	○事業の進捗の見込み ・水質改善については、地域から強い要望があり、湖沼水質保全特別措置法に基づく第 7 期印旛沼湖沼水質保全計画（平成 29 年 3 月策定）においても、湖沼の浄化対策として、植生帯の整備等が位置付けられている。 ○コスト縮減 ・浚渫発生土を植生帯造成等として用いることにより、コスト縮減を図っていく。 ・今後も新技術利用の可能性について、引き続き検討していく。				